

2 インドの米需給と関連する諸政策

藤 田 幸 一

はじめに

私はバングラデシュの農業、農村を中心に研究し、最近ようやく南インドのタミルナードゥ州の農村でやや詳しい調査をするようになりました。インド農業を長期に研究しているわけではありません。2006年に『国際開発研究』にインドの食料事情などに関する論文を書きましたが、今日は、その内容にも関係しますが、ご報告いたします。

インドはBRICs（新興経済国）の1つです。1991年、湾岸危機の影響で多くのインドから中東への出稼ぎ労働者が帰国を余儀なくされ、外貨収入が急減、それを契機に本格的な経済改革・自由化が始まりました。改革は1980年代から徐々に進んでいましたが、本格化したのは1991年以降です。以来約20年の歳月が経過しましたが、われわれインド経済を注視していた者からすると、予想外に順調な経済の回復と成長を遂げ、最近は年率7%程度の高度成長となっています。中国には及びませんが、人口規模などからして、今後大きな影響を世界経済に与えていくと思います。今日は米に焦点を当てるということですが、その前に全般的な話をいたします。

【農業発展と経済成長】

まず、図6をご覧ください。1990年代以降、経済成長が加速していることがわかります。同時に、農業が成長率を下げ、過去20年ほどは2～2.5%の低成長にとどまっています。その最大の理由は、すぐあとでも述べますが、農産物需要、特に穀物需要の頭打ちです。その結果、IT産業を含む非農業セクターとの格差が拡大しているわけで、インド経済は新しい発展段階に入り、都市・農村所得格差の拡大やそれに伴う都市への人口流出の加速化など、難しい問題が生ずる局面になっています。

それに先立つ1980年代は、インド農業の黄金時代でした。穀物生産は年率4%程度の高い伸びを示し、底辺層を含む国民全体が穀物を十分食べられるようになりました。長い間均衡していたサハラ以南アフリカとインドの1人当たり熱量供給量ですが、1980年代以降、前者が2,100カロリーで停滞したのに対し、後者は2,300カロリーまで上昇し、大差がつかしました。インドでは1980年代に農村実質賃金もかなり上がっています。私は、

1980年代の農業発展の基盤の上に1990年代以降の経済成長があったと考えています。ただし、1990年代以降は、1人当たり穀物消費量が飽和し、穀物（特に米）過剰が顕在化して、農業多角化が求められる時代に入りました。農業は現在GDPシェアで2割を切りましたが、農村人口は約7割を占め、就業人口の多くを農業およびその関連産業が吸収しています。

【インド農業と食生活の特徴】

次に、インド農業の特徴を述べます。表1は、土地利用統計です。IIの5の欄が純作付面積つまり農地面積ですが、1970年頃に頭打ちになり、それ以降は増えていないことがわかります。他方、のべ作付面積は少しずつ伸び、多毛作化が進展しましたが、ごく最近に至っても多毛作率は135%にとどまっています。戦後かなりのスピードで灌漑開発が進みましたが、現在でも灌漑率は40%強であり、したがって多毛作率が小さいわけです。インド農業は、いまだ「モンスーンとの賭け」といわれるようなモンスーンの気象変動にかなり弱い体質を持っています。

図1をご覧ください。インドは非常に国土が広く多様で、熱帯からヒマラヤ山麓の氷雪地帯まで含んでいますが、東経80度線がほぼ年間降水量1,000ミリに相当し、その東側の多雨地帯は天水でも稲作が可能な地域、西側の少雨地帯は伝統的に雑穀や小麦作地域でした（例外は西海岸沿いで、山脈が走っている関係上、多雨地帯です）。かつて小麦はマイナー・クロップでしたが、過去半世紀ほどの間に、米とともにインドの二大作物となりました。

図2は、作物別の作付面積割合を示しますが、まだ雑穀がかなりの面積を占めていることがわかります。また豆類が伝統的に重要作物で、米、小麦、雑穀、豆類を合わせてインドではフードグレインと称し、政策担当者はその生産動向を注視しています。

表2の付図をご覧ください。州別の1人当たり穀物（米、小麦、雑穀）の年間消費量を円グラフで示しています。円がほとんど同じ大きさにみえますが、実は若干違っており、それが量の違いを示します。東部は米食地帯になっています（かつては雑穀の消費が多かったのですが）。西部では雑穀が中心です。都市ではほとんど食べられなくなっていますが、農村ではまだ残っています。

次に表3は、FAOの食糧需給表の少し古いデータ（1990年代初め）ですが、現在も基本構造は変わっていません。これを用いてインドの食生活の特徴を説明いたします。まず、穀物合計（家畜飼料向けを含む）をみると、インド180キロ、日本318キロ、アメリカ

852キロとなっています。インドは穀物をほとんど家畜飼料用に回していないといえます。最近少し変化がありますが、基本的には菜食主義が根強い国であり、若い世代でも週に2回ぐらいしか肉を食べないと決めているなどといった状況で、肉の消費量はあまり増えていません。

対照的に、畜産物の中で伝統的に多く摂取してきたのがミルクです。インドの1人当たり消費量は65キロとなっていますが、これは同じような所得水準の国と比べるとはるかに高い数字で、現在も経済成長に伴って増加し続けています。乳脂肪分が高いので水牛のミルクが好まれるのですが、都市近郊では水牛を集約的に飼育している経営も現われています。

魚介類は、表をみる限り少なくなっていますが、東部ではかなり多く摂取されています。主に淡水魚です。ミルクはほぼ全国的に消費されていますが、特に西部と北部で多く、魚介類は東部が多いというふうに、たんぱく源の摂取の仕方に地域差があります。そのほか、豆類の摂取が多いという特徴があります。豆はかなり広範に食されていますが、緑の革命後は生産量が伸び悩み、ミャンマーやカナダなどから大量に輸入しています。

また、輸入が多いことで特筆されるのが食用油です。インドでは伝統的に、落花生、ココナツ油、菜種・からし菜、あるいは近年ではヒマワリ、大豆などがデカン高原を中心に増産されていますが、1990年代半ばに思い切った食用油の輸入自由化が行われ、マレーシア、インドネシアから大量のパーム・オイルが入っています。それが農産物の大きな輸入品目となっています。豆と食用油を輸入し、米などを輸出するという農産物貿易構造となっているわけです。

【農業の発展過程】

さて次に、少し歴史的な変化についてお話ししたいと思います。

1980年から最近までの人口の伸びと、対する穀物の純生産量、純輸出力（マイナスですと輸入量になります）の動きについて説明しておきます。インドは英領植民地下で、特に20世紀に入ってから、半世紀ほど穀物生産が完全に停滞しました。それが反転し、顕著に増加に転ずるのが独立後です。しかしネルー首相の下で社会主義的な国家を目指し、特に第二次5ヵ年計画以降、マハラノビス・モデルに基づく重化学工業重視政策を明確に打ち出します。反面、農業をはじめ伝統的産業は相対的に軽視されます。その間10～15年ほど、インド農業は実は成長はしていたのですが、人口増加に追い付かず、食料輸入がどんどん増えていきました。そして1960年代半ばに2年連続の大干ばつに見舞われ、1,000万

トンを超える大量の食料輸入を余儀なくされます。影響は経済全般および政治体制にまでおよび、インドは農業政策を大転換します。それまでは土地改革や協同組合の組織化など制度改革を重視していましたが、1960年代半ば以降、新技術導入を重視する方向に大転換します。

ちょうどその頃、メキシコの国際小麦トウモロコシ改良センターやIRRIの高収量品種が出回り始め、インドにとっては渡りに舟でした。まず、小麦の生産量が急増し、約10年でほぼ食料自給レベルまで回復します。ただし、1960年代半ばから70年代半ばまでの約10年をインドでは「失われた10年」と呼び、大変な不況に陥ります。なぜかといえば、以前は重化学工業化政策の下、原材料や機械類の輸入に多くの外貨を割いてきたわけですが、1960年代半ば以降、農業振興のため化学肥料や農業機械の輸入を優先せざるを得ず、またしばらくは食料輸入も続けなければなりませんでしたので、工業部門が外貨制約の下で停滞したからです。農業軽視のまま重化学工業化を強引に推し進めた政策のしっぺ返しを受けたといえるかと思います。

こうして1970年代末までに緑の革命が進展し、食料自給を達成するのですが、緑の革命が一部地域（パンジャブ州などインド北西部）に偏っており、しかも小麦中心のいわば小麦革命でしたので、米を伝統的に作ってきた地域をはじめ、農村は昔のままに貧しかったわけです。そういう状況が変化するのが1980年代であり、小麦だけでなく米、油料種子、メイズ、綿花などほぼすべての作物が年率4～5%で成長しました。全国規模で農業成長が起こったわけで、農村貧困が改善され、農村の消費購買力がつき、それを基盤に1990年代以降の経済の高度成長へつながっていったというわけです。

図4は1人当たり穀物入手可能量、つまり生産量マイナス輸出プラス輸入に在庫変動を調整したものです。1980年代の140キロの水準から1990年代初めになると170キロ近くまで上昇していることがわかります。これが、栄養改善を示す証拠になるものです。

ただし図4は、あくまで供給ベースの数字です。表4が、家計調査に基づく消費データです。5年毎の大サンプル調査は、特に信頼性が高いといわれています。これをみますと、穀物の1人当たり摂取量がピークに達したのは1970年代末で、以来ずっと減少してきたといえます。雑穀の減少がその主な原因でした。雑穀が米や小麦に代替したわけです。供給ベースの数値と家計調査の数値にやや開きがありますが、いずれにしても1980年代に、下層の人々も含め、米や小麦がお腹いっぱい食べられる状態になったといえます。

【米輸出大国化と食料の公共配給制度】

さて、ここから米に焦点を当てた話に移ります。穀物生産量の伸びが1990年代に入って少し鈍っていますが、にもかかわらず純輸出量が1990年代半ば以降、大きなプラスに転じました。大部分は米です。インドは、1995年に突如400万トンもの大量の米輸出をして世界を驚かせたわけですが、それ以降、変動は大きいものの恒常的な米輸出国になりました。以下では、その背景についてご説明します。

インドは、1960年代半ばの食料危機以来、穀物の国家買い上げと配給の制度を本格的に始動させます。生産余剰州から米や小麦を買い上げ、不足州に運んで州政府に売り渡し、州政府はその責任において、都市部重視ですが、かなり広域にわたる配給店網を配置し、国民に市場価格より少し安い価格で売り渡すシステムです。最近では、生産量の約3割が国家買い上げ対象になっていますので、市場化率が7割だとして農家の自家消費分を差し引きますと、市場流通している穀物のざっと4～5割を国が管理していることになります。

このシステムは、1990年代に入って異変を起こします。1991年の外貨危機を契機に経済危機が生じ、政府は経済自由化政策の一環としてルピーの大幅切り下げを実行します。その影響で、穀物の国内価格が国際価格に比べて相対的に安くなり、余剰生産地域の農民のロビー活動も手伝って、政府は買い上げ価格を年率10～15%という猛烈な勢いで数年間、上げ続けたのです。一方、政府は、財政赤字拡大を回避するため、売り渡し価格も引き上げざるを得なかったのですが、その結果、農民はより多く売り、消費者はより少なく買うという状況が生まれ、政府の在庫が急速に積み上がりました。1つのピークは1990年代半ばでありまして、当時、米と小麦合計で3,000万トンを超す在庫を抱え、在庫の持ち越し費用の高さに耐えかねた政府は、輸出限定という条件つきで民間商人に破格の安値で売り渡し、それが400万トンのコメ輸出につながったのです。インド政府は、大損をしました。

その後、政府は買い上げ価格を抑制し、その結果在庫が減少し、在庫が基準量を下回るとまた危機感を感じて買い上げ価格を上げ、その結果在庫が膨らむ、といった循環を繰り返します。その結果、2回目の過剰問題が2001～02年にかけて生じ、その際には小麦と米合計で6,000万トンもの膨大な在庫を抱え、やはり補助金付きで輸出しました。

ここで配給制度について説明しておきますと、当初はユニバーサル制度で、国民が誰でも平等に買えました。1世帯につき1ヵ月何キロという上限は決まっていたのですが、市場価格より少し安い価格で誰でも買えました。しかし1997年から、貧困世帯により厚く配分するターゲット化の方向に制度が改革されます。そのため貧困線というものを計算し、それ

以下の所得の世帯を特定し（ここに汚職の問題が絡みますが）、市価の5分の1とか10分の1などの極端な安値で穀物を配給し始めます。州によってかなりスタンスが異なるのですが、例えばタミルナードゥ州では、誰でも1キロ2ルピーで1ヵ月20キロまで米を買えます。1ルピーは約2円で、市場価格が約20ルピーですので、2ルピーはただ同然です。最貧困世帯は1ヵ月35キロ買えます。35kgもあれば十分ですから、超安値での食料配給システムといえます。もちろんそれは財政負担になるわけですが、低所得層にとっては非常にありがたい制度です。さらに、2大政党間で選挙のたびに公約を通じて引き下げ競争をやっているものですから、最近1キロ1ルピーになりました（さらに、ただになりました）。そのほか、現政権は、貧困層にテレビを1台無償配布するとか、8年生以上の生徒がいる世帯には自転車を1台無償配布するなど、ポピュリズム的な政策が実施されています。

話をもとに戻しますと、1995～96年と2002～03年頃をピークにして、かなり大量の米が政府の過剰在庫問題を背景に、押し出されるように輸出されました。主な輸出先はバングラデシュとサハラ以南アフリカですが、それはインドの輸出米の品質がよくないためです。特に、インド食糧公社という買い上げ・保管・売り渡しの物流を実際に担っている機関がありますが、そこでの保管に問題があります。以前は、配給される米や小麦は黄変して臭くて食べられないという問題がありました。最近は大分よくなっているようですが、

【世界食糧危機とインド】

さて、最近の世界食料危機に話を移します。価格がピークをつけたのが2008年4月だったわけですが、その直前にインドは米の輸出禁止という政策を断行しました。それが契機になって、さらに国際価格の高騰につながったと世間ではいっています。事実、そういう面があると思います。現在も、原則禁止という政策に変わりはないのですが、ただしコメの輸出は相変わらずの量で続いています。それは、二国間協定を通じて、その都度許可を出して売り渡している分です。なお、インドの米は、大きくバスマティ米とそれ以外に分かれます。バスマティ米の輸出は、かつて50～60万トン程度で推移していたのですが、近年増加傾向に転じ、現在は100万トンを少し超える程度まで伸びています。バスマティ米は単価が高く、中東を中心とした高所得者向けです。1990年代半ばと2000年代はじめに大量の輸出をしたのは、バスマティ以外の普通の米です。価格は当然かなり低いわけです。

最後に、インドの米単収について若干補足しておきます。米単収については7図を参照下さい。インドでは伝統的に精米ベースで単収を表示する慣行になっていまして、精米ベース

でヘクタール当たり2～2.1トン（籾重にして3トン強）の水準になります。灌漑の先進地で、灌漑率が90%を超えている4州では精米ベースで3トン程度、うち最大のパンジャブ州では3.9トンです。籾重にしますと、6トン近いかなり高い水準に達しています。パンジャブは、米と小麦のインテンシブな二期作で農家が潤っている農業先進地域ですが、1990年代以降、所得が伸び悩んでいて社会問題になっています。穀物の需要が頭打ちになる中で農業多角化が求められているにもかかわらず、それが一向に進展せず、所得低迷に苦しんでいるわけです。つい最近まで、インドの1人当たり所得は、農業州であるパンジャブが一番高いという少し不思議な状況だったのですが、現在はムンバイ（旧ボンベイ）を擁するマハラシュトラが最大になっています。

【地下水灌漑と持続性】

最後になりますが、インドの灌漑について少し述べます。灌漑率はやっと4割を超えたと申しましたが、その半分以上が地下水灌漑です。独立後伸びたのはほとんど地下水灌漑です。小型のチューブウェル（管井戸）を農民個人が掘り、自分でコントロールして灌漑します。かつてのため池地帯でも、灌漑区域内に井戸が掘られ地下水灌漑が広がり、用水路地帯でも、井戸を掘って用水路と井戸の両方で灌漑する形態が広がっているわけで、地下水への依存度の高さという点で、他のアジア諸国にはない特徴を有しています。よく地下水の枯渇問題が取り上げられます。確かに数字上はかなり深刻な事態になっているのですが、農民レベルではそれに対応した動きがほとんどなく、一部地域では地下水位が下がるにつれ、井戸の深掘り競争が起こっています。もう1つの問題は、地下水くみ上げの主たるエネルギー源の電気です。ほとんどの州ではモーターの馬力数で決まる固定価格で電気代を徴収しており、実際に電気を幾ら使おうが料金は変わらないという構造にあります。ただし、停電が多く、いつ電気が来るかわからないという不安定な地域が多いものですから、24時間スイッチをつけっぱなしにし、夜中に急に電気が来て、その間灌漑がなされるなどといった無茶苦茶な使い方をしているところが多く、それが中長期的に灌漑水枯渇に結び付いています。政策担当者は危機感を募らせていますが、どうしようもない状況が続いています。この問題が、今のところは潜在的ではありますが、インドの米生産の将来にとって大きな脅威になっていると思います。

図6 インドの経済成長率 (3年移動平均)

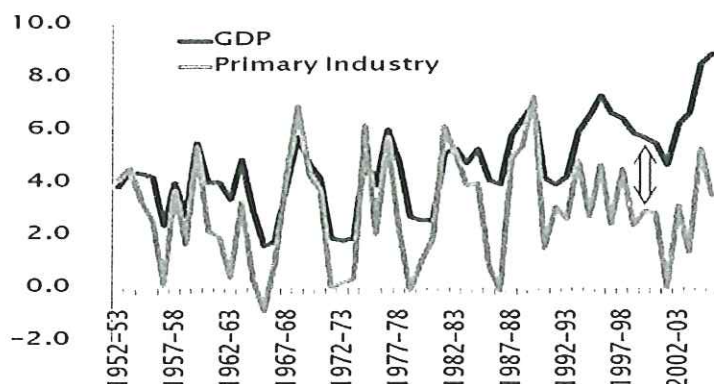


表1 土地利用の推移

(単位:100万ha)

	1950/51	1960/61	1970/71	1980/81	1990/91	1999/2000
I 国土面積	328.7	328.7	328.7	328.7	328.7	328.7
II 土地利用統計のための報告面積	284.4	294.5	303.8	304.2	304.9	306.0
1 森林	40.5	50.1	63.9	67.5	67.8	69.0
2 耕作不能地	47.6	50.8	44.6	39.6	40.5	42.4
3 非耕作地(休閑地を除く)						
A 永年牧草地	6.7	14.0	13.3	12.0	11.4	11.0
B 灌木地 #	19.8	4.5	4.3	3.6	3.8	3.6
C 可耕荒蕪地	22.9	19.2	17.5	16.7	15.0	13.8
4 休閑地	28.1	22.8	19.9	24.8	23.4	25.1
5 純作付面積	118.8	133.2	140.3	140.0	143.0	141.1
III のべ作付面積	131.9	152.8	165.8	172.6	185.7	190.3
IV 作付集約度(のべ作付面積/純作付面積)	111%	115%	118%	123%	130%	135%
V 灌漑面積						
1 純灌漑面積	20.9	24.7	31.1	38.7	47.8	56.8
2 のべ灌漑面積	22.6	28.0	38.2	49.8	62.5	78.0
灌漑集約度(のべ灌漑面積/純灌漑面積)	108%	113%	123%	129%	131%	137%
灌漑率A(純灌漑面積/純作付面積)	17.6%	18.5%	22.2%	27.7%	33.4%	40.2%
灌漑率B(のべ灌漑面積/のべ作付面積)	17.1%	18.3%	23.0%	28.8%	33.6%	41.0%
VI 森林率A(森林面積/国土面積)	12.3%	15.2%	19.4%	20.5%	20.6%	21.0%
森林率B(森林面積/報告面積)	14.2%	17.0%	21.0%	22.2%	22.2%	22.5%

出所) Government of India, *Agricultural Statistics at a Glance 2004*.

"Land Under Misc. Tree Crops & Groves Not Included in Net Area Sown"

図1 インドの年間降水量の地域分布

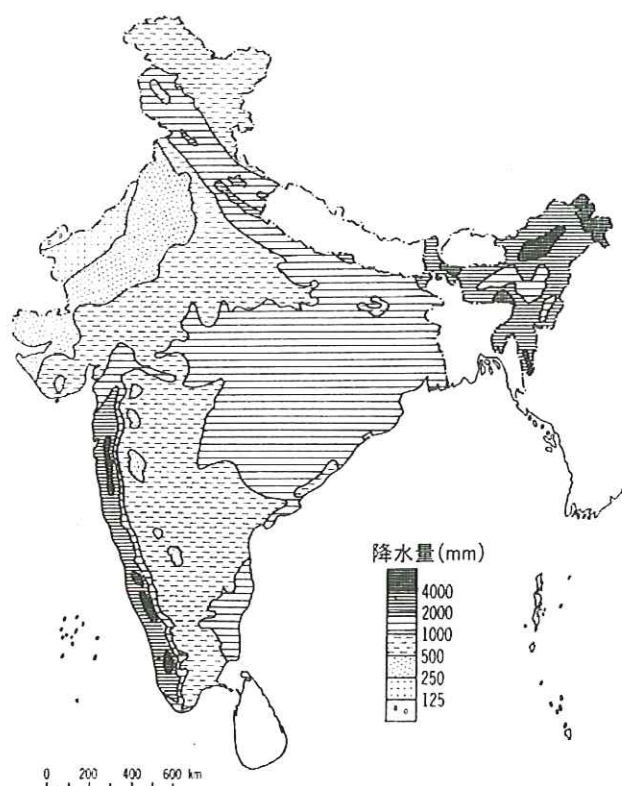


図2 主要作物の作付面積シェア

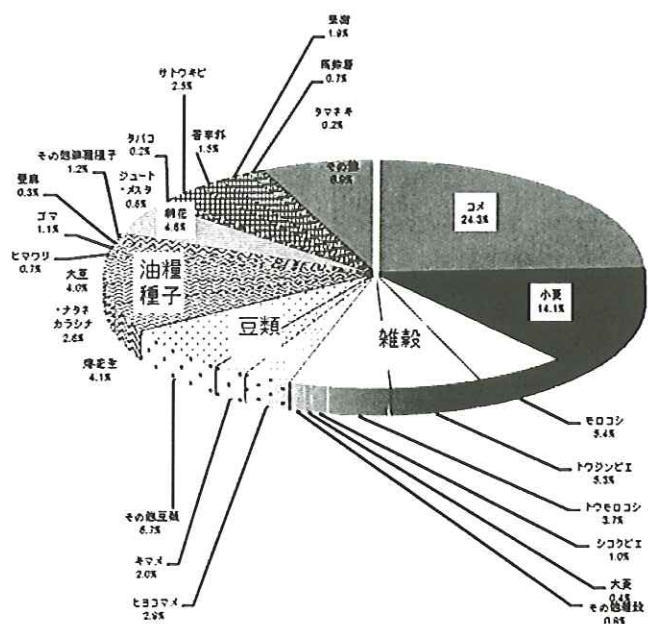


表2 2004-05年度における主な州別の1人当たり年間穀物消費量 (kg)

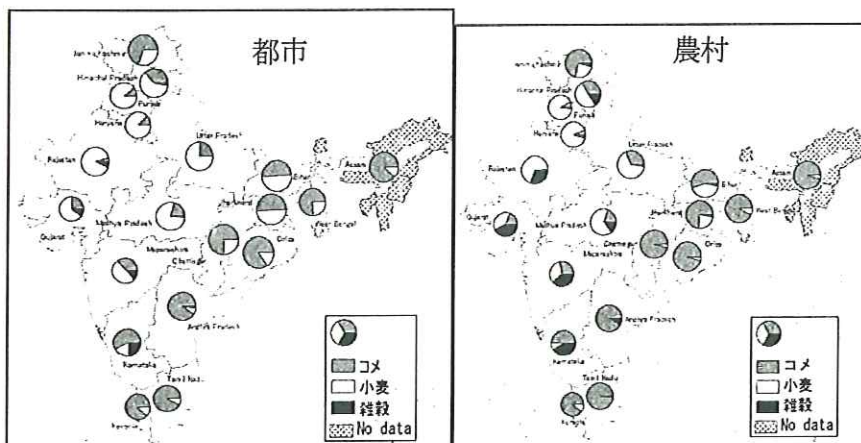
		コメ	小麦	雑穀	合計			コメ	小麦	雑穀	合計
シヤンムー・カシミール	都市	102	44	0	146	アッサム	都市	127	16	0	143
	農村	113	39	6	158		農村	149	7	0	156
ヒマーチャル・プラデシュ	都市	49	77	4	130	西ベンガル	都市	95	29	0	124
	農村	49	73	23	145		農村	146	12	0	158
パンジャブ	都市	12	95	1	108	ビハール	都市	74	72	1	147
	農村	9	108	2	119		農村	86	65	6	157
ハリヤナ	都市	14	95	1	110	ジャルカント	都市	75	70	0	145
	農村	8	114	6	128		農村	115	34	5	154
ウッタル・プラデシュ	都市	33	98	0	131	オリッサ	都市	133	24	0	157
	農村	49	103	3	155		農村	160	6	2	168
						チャティスガル	都市	107	35	0	142
							農村	151	6	1	158

		コメ	小麦	雑穀	合計			コメ	小麦	雑穀	合計
ラジャスタン	都市	6	115	9	130	アンドラ・プラデシュ	都市	115	9	3	127
	農村	2	102	48	152		農村	133	3	9	145
グジャラート	都市	25	64	10	99	タミルナードゥ	都市	104	9	1	114
	農村	24	44	53	121		農村	145	2	0	147
マディヤ・プラデシュ	都市	26	96	2	124	ケララ	都市	93	13	0	147
	農村	28	92	21	141		農村	103	11	0	114
マハラシュトラ	都市	36	52	13	101	カルナタカ	都市	68	21	28	68
	農村	36	41	49	126		農村	64	12	53	129
						全インド	都市	58.2	55.7	5.4	119.3
							農村	78.6	51.5	15.3	145.4

資料) 全国標本調査

注) 州の位置については下図を参照

表2の補図 インドの州別・都市農村別の1人当たり穀物消費量



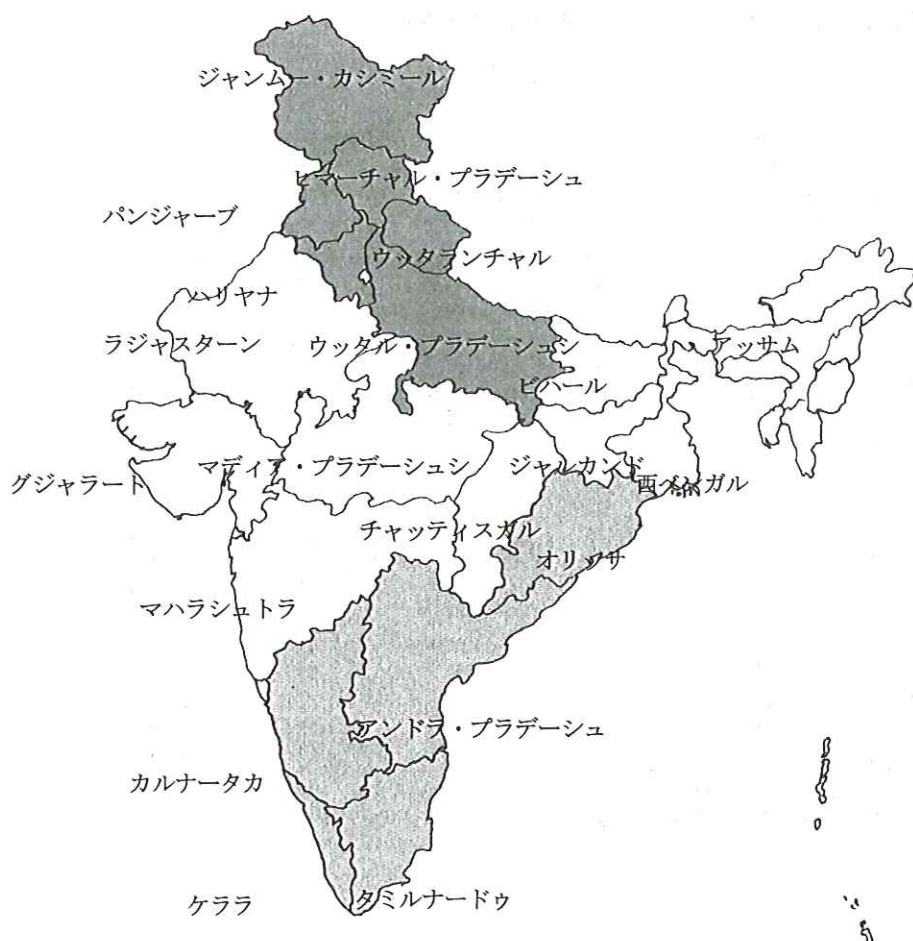


図4 国民1人当たり入手可能量

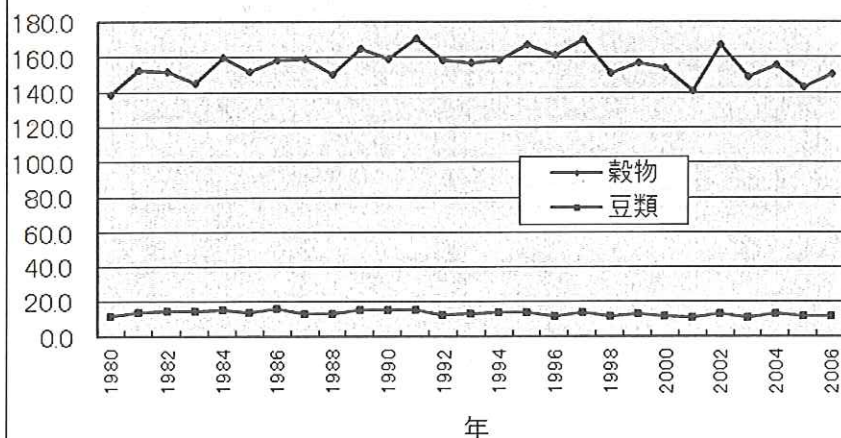


表3 食糧需給表にみるインドの食料消費構造の特徴

	インド	インドネシア	中国	日本	アメリカ
穀物	180.5 (1.1%)	226.4 (8.7%)	281.1 (19.0%)	318.8 (46.7%)	852.1 (70.9%)
うちコメ	93.2 (0.4%)	175.2 (2.2%)	112.4 (1.8%)	80.5 (0.2%)	10.6 (-)
小麦	55.5 (1.4%)	14.2 (-)	84.4 (3.0%)	52.4 (9.3%)	113.9 (24.7%)
その他	31.8 (2.3%)	37.0 (43.1%)	84.3 (58.1%)	185.9 (77.4%)	727.6 (79.3%)
豆類	14.0 (7.8%)	2.2 (-)	3.9 (25.3%)	2.5 (4.5%)	3.7 (0.9%)
いも類	20.7 (-)	68.1 (2.9%)	117.2 (43.1%)	48.4 (2.5%)	64.4 (3.0%)
油糧作物	32.7 (3.6%)	74.8 (0.0%)	26.9 (10.0%)	60.3 (3.3%)	165.8 (6.0%)
砂糖類	24.2	14.1	7.2	32.6	68
野菜	64.2	23.6	86.5	106.6	106.4
果物	35.9	33.2	31.4	60.5	162.1
食肉	4.4	8.2	33.0	39.7	117.9
うち牛・水牛	2.6	1.6	2.0	9.6	42.8
羊・ヤギ	0.7	0.5	1.2	0.4	0.6
家禽	0.5	3.2	5.0	14.1	43.3
豚	0.4	2.9	24.5	15.2	30.3
ミルク	65.6	5.9	6.6	81.1	257.4
卵	1.3	2.4	9.7	19.9	13.4
魚介類	4.4 (8.5%)	18.0 (12.4%)	16.1 (15.9%)	99.0 (32.6%)	26.9 (18.2%)
植物油	6.7	7.9	5.1	11.3	19.9
動物油	1.4	0.5	1.5	2.4	9.9
熱量摂取	2397	2609	2757	2890	3610
蛋白質	58.0	60.3	69.7	95.0	112.5
うち動物性	15.7%	17.2%	26.8%	55.2%	64.7%
脂肪	41.8	50.8	58.1	78.9	142.3
うち動物性	26.3%	15.4%	58.9%	45.8%	55.4%

出所)FAO, Food Balance Sheets 1992-94 Average, 1996.

注)数値は、生食+加工向け+家畜飼料向けの合計。()内は、家畜飼料向けの割合。

図5 主要穀物の生産トレンド

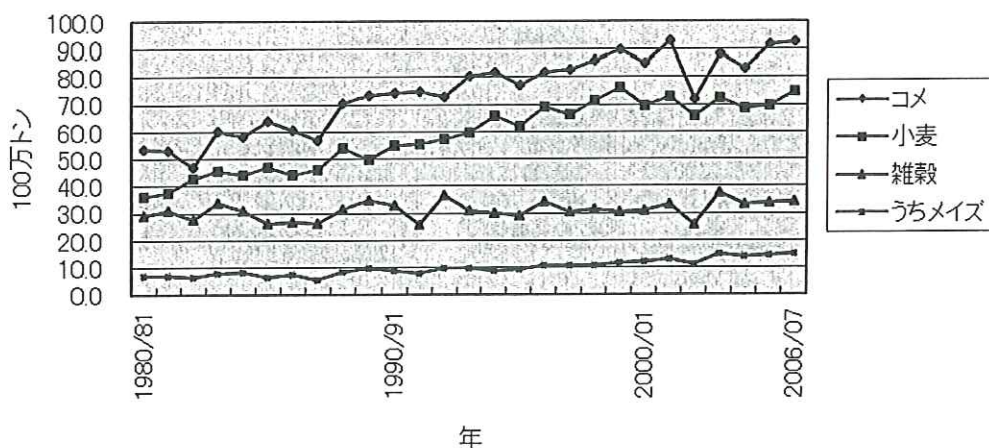


表4 国民1人当たり穀物消費量の変化

都市	コメ	小麦	雑穀	合計
1973-74	64.6	51.8	19.4	135.8
1977-78	65.8	58.4	15.2	139.4
1983-84	63.8	57.8	13.9	135.6
1987-88	64.2	57.7	10.8	132.7
1993-94	63.4	56.6	7.6	127.6
1999-00	62.6	57.2	5.2	125.0
2004-05	58.2	55.7	5.4	119.3
農村	コメ	小麦	雑穀	合計
1973-74	82.8	42.2	56.0	181.1
1977-78	85.4	48.6	54.1	188.2
1983-84	79.6	53.5	44.5	177.6
1987-88	84.5	59.3	29.9	173.6
1993-94	84.0	52.8	24.0	160.8
1999-00	80.2	57.2	16.7	151.4
2004-05	78.6	51.5	15.3	145.4

資料)全国標本調査、各年版。

表5 成長率(平均年率)

	全経済	農業	非農業
1981-82 to 1990-91	5.4	3.5	6.4
1991-92 to 1996-97	5.7	3.7	6.6
1997-98 to 2006-07	6.6	2.5	7.9

図 7

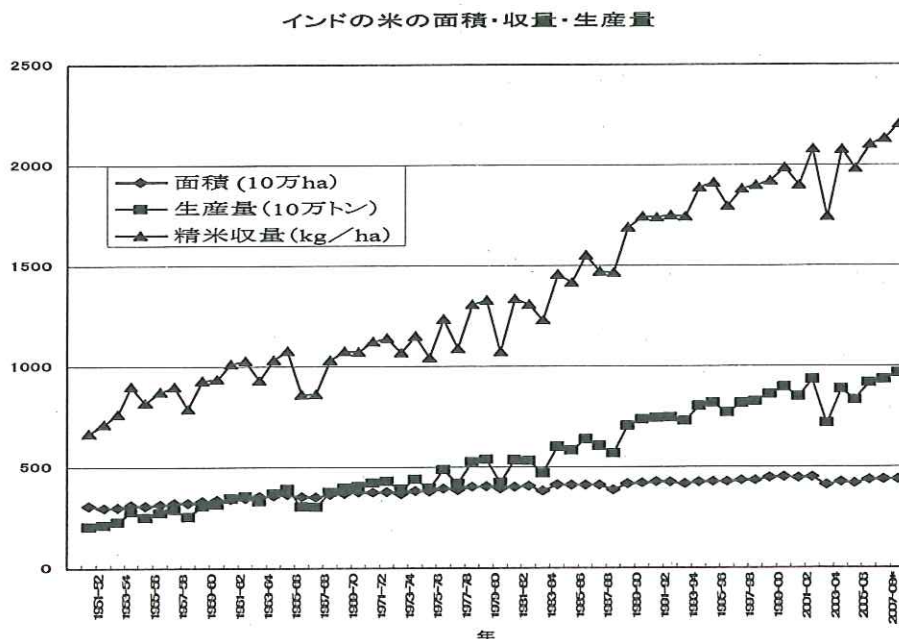


表 6

4.6 (b): Area, Production and Yield of Rice during 2005-06 and 2006-07 in respect of major Rice Producing States alongwith coverage under Irrigation

State	2006-07						% Coverage Under Irrigation During 2005-06*
	Area	%	Production	%	Cumulative	Yield	
	(100万ha)	to All - India	(100万トン)	to All - India	%	(kg/ha)	
1	2	3	4	5	6	7	14
West Bengal	5.69	12.99	14.75	15.80	15.80	2593	49.8
Andhra Pradesh	3.98	9.08	11.87	12.71	28.51	2984	96.6
Uttar Pradesh	5.92	13.51	11.12	11.91	40.42	1879	73.0
Punjab	2.62	5.98	10.14	10.86	51.29	3868	99.3
Orissa	4.45	10.16	6.82	7.31	58.59	1534	42.6
Tamil Nadu	1.93	4.41	6.61	7.08	65.67	3423	93.0
Chattisgarh	3.72	8.49	5.04	5.40	71.07	1354	30.3
Bihar	3.36	7.67	4.99	5.34	76.41	1486	51.1
Karnataka	1.40	3.20	3.45	3.70	80.11	2470	75.8
Haryana	1.04	2.37	3.37	3.61	83.72	3238	99.9
Jharkhand	1.62	3.70	2.97	3.18	86.90	1828	5.6
Assam	2.19	5.00	2.92	3.13	90.03	1332	4.6
Maharashtra	1.53	3.49	2.57	2.75	92.78	1680	28.7
Gujarat	0.73	1.67	1.39	1.49	94.27	1894	57.9
Madhya Pradesh	1.66	3.79	1.37	1.47	95.74	824	13.6
Kerala	0.26	0.59	0.63	0.67	96.41	2390	66.3
Others	1.71	3.90	3.35	3.59	100.00	@	-
All India	43.81	100.00	93.36	100.00		2131	56.0

@ - Since area/ production is low in individual states, yield rate is not worked out.

Note: States have been arranged in descending order of percentage share of production during 2006-07.

* Provisional

表 7

8.4 : Marketed Surplus Ratio (MSR) of Important Agricultural Commodities in Various States (Based on Comprehensive Scheme for Studying Cost of Cultivation of Principal Crops in India)

Group of Crops	Crops	State	MSR	
			2004-05	2005-06
1	2	3	5	6
I. Foodgrains : Cereals	1. Rice	Andhra Pradesh	83.06	79.99
		Assam	41.26	65.64
		Bihar	73.50	68.04
		Haryana	98.22	<u>96.82</u>
		Karnataka	84.41	94.35
		Kerala	64.59	63.20
		Madhya Pradesh	65.09	69.11
		Orissa	65.43	59.08
		Punjab	97.70	98.12
		Tamil Nadu	78.44	74.54
		Uttar Pradesh	46.51	38.93
		West Bengal	60.39	48.51
	All-India Weighted Average*		71.37	71.25
	2. Wheat	Bihar	70.12	59.27
		Gujarat	93.62	91.50
		Haryana	74.64	66.24
		Himachal Pradesh	29.49	48.03
		Madhya Pradesh	74.54	54.76
		Punjab	81.34	76.46
		Rajasthan	27.20	49.25
		Uttar Pradesh	50.21	35.00
	All-India Weighted Average*		63.33	54.90
	3. Maize	Andhra Pradesh	89.01	95.15
		Bihar	67.40	86.00
		Himachal Pradesh	44.30	44.19
		Karnataka	93.47	96.85
		Madhya Pradesh	66.82	51.67
		Rajasthan	56.22	55.30
		Uttar Pradesh	78.74	61.99
	All-India Weighted Average*		76.22	80.01

* It is weighted average of states listed above.

Bold and underlined figures are estimated on the basis of average of preceding/ succeeding years in cases where production/sale figure is not available in CS RT-610 or is inconsistent.

@ In case of cotton, production is in bales of 170 kgs. each.

In case of jute, production is in bales of 180 kgs. each.

\$ Adjusted sale with respect to opening stock & other receipts.

- Not Reported

表 8

13.3 : India's Exports of Agricultural Products during 2005-06 to 2007-08

(Quantity : '000 tonnes)

(Value : Rs. Crore)

Commodity	April 2005 March 06		April 2006 March 07		April 2007 - March 08 (P)	
	Quantity	Value	Quantity	Value	Quantity	Value
Pulses	447.44	1115.21	250.70	773.34	163.67	526.95
Rice Basmati	1166.57	3043.10	1045.73	2792.81	1181.66	4334.77
Rice(Other than Basmati)	2921.60	3178.17	3702.22	4243.10	5314.18	7396.23
Wheat	746.18	557.53	46.64	35.35	0.23	0.23
Other Cereals	567.22	453.82	730.38	599.25	3227.79	2978.86
Tea	162.86	1730.73	185.63	1969.51	198.55	2022.32
Coffee	177.68	1588.69	213.65	1969.00	178.12	1868.02
Tobacco Unmanufactured	142.70	1021.32	158.25	1251.28	173.51	1430.49
Tobacco Manufactured	-	309.34	-	433.89	-	498.16
Poultry & Dairy Products	-	794.61	-	497.09	-	921.18
Floriculture Products	-	301.45	-	652.70	-	338.01
Spices	400.24	2115.98	482.80	3157.90	619.61	4176.07
Cashewnut Shell Liquid	5.94	8.67	8.09	15.34	14.75	25.02
Cashew	125.10	2584.70	122.78	2291.18	111.28	2209.73
Sesamum Seed	199.81	746.60	233.34	939.58	314.11	1624.01
Nigerseed	28.42	60.25	30.02	66.87	21.68	90.03
Groundnut	190.06	513.69	251.43	79.86	268.14	1041.72
Guargum Meal	186.73	1094.23	189.33	1125.79	207.81	1110.55
Oil Meals	5976.00	4875.01	6437.43	5504.32	6690.84	7953.79
Castor Oil	254.72	939.74	294.87	1090.11	281.99	1274.58
Shellac	9.30	159.98	7.51	147.20	7.98	123.55
Sugar	321.20	569.10	1643.40	3127.47	4641.14	5404.18
Molasses	72.94	28.81	326.87	133.37	863.46	250.08
Fruits/Vegetable Seeds	7.52	92.96	8.10	121.59	10.30	142.66
Fresh Fruits	-	1120.69	-	1413.98	-	1446.99
Fresh Vegetables	-	919.81	-	1546.53	-	1473.31
Processed Vegetables	-	494.48	-	650.23	-	605.54
Processed Fruit Juices	-	599.91	-	711.40	-	769.20
Miscellaneous Processed Items	-	989.53	-	1125.05	-	1337.16
Meat & Preparations	-	2750.17	-	3314.03	-	3734.48
Marine Products	554.20	7035.91	611.55	8001.04	487.50	6854.68
Cotton Raw including Waste	614.80	2904.35	1162.22	6107.81	1417.46	7999.69
Jute Hessian	-	490.90	-	375.81	-	463.76
Poultry Products	-	313.37	-	313.82	-	406.68
Paper/Wood products	-	3759.15	-	4915.22	-	4937.03
Total Agricultural Exports	-	49216.96	-	62411.42	-	77769.71
Total National Exports	-	456417.86	-	571779.28	-	640172.14
% of Agricultural Exports in National Exports		10.78		10.92		12.15

P- Provisional

Source :- Director General of Commercial Intelligence & Statistics, Ministry of Commerce, Kolkata.